

フォーリー淳子

日本初の焼肉レストランチェーン「大同門」の創業者、西村義博の3姉妹の長女として生まれる。1984年、神戸女学院大学卒業。

好きだった英語を生かす仕事がしたいと、大阪大学医学部教授の秘書をしながらサイマル・アカデミーに通い通訳者を目指す。その後大阪府知事付通訳として、大阪府庁に勤務。大阪府庁退職後は、同時・逐次通訳者として活動。

見合い結婚後、1990～1993年までは韓国ソウルに居住。

大同門の後継者として嘱望されていた夫と離婚、長女として親の求める娘を演じることに疑問を感じ33歳で起業。ロンドン証券取引所上場のオンラインデータベースの会社MAID社の日本総代理店権を獲得し、株式会社メイド・ジャパンを設立。

富士通子会社に事業移譲後、1998年に人工知能技術をベースとしたリアルタイム・レコメンドサービスのシルバーエッグ・テクノロジー株式会社を、人生のパートナーでもあるトーマス・フォーリーと設立。専務取締役&COOとして同社の事業構築に携わる。2000年、長男出産。以来、仕事と子育てを両立。長女として親の期待に逆らえずにきた自らの経験から、長男を単身アメリカの学校へ送り出した。

6億円弱の投資を受けスタートした会社だが上手くいかず、2002年に苦渋の選択で会社規模を縮小した。初心に戻りフォーリーと2人で再スタートにチャレンジし事業拡大を実現し、2016年9月に東証マザーズへの上場を果たす。自身は、2015年にシルバーエッグ社の専務取締役を退任。

2006年、BSE問題などのあおりを受け、「大同門」が民事再生にてファンドの手に渡る。大同門には一切関わりなしと心に誓っていたが、「両親が作り、彼らの生きてきた証であり、自分たちを育ててくれた大同門を失うのはもったいない。関西のブランドとして再生させることが自分の使命だ」と再生を決意。当時、偶然出会った四柱推命の占い師に「この1年をどう過ごすかで、あなたの残りの人生が決まる」と言われ、腹をくくり、買い戻すタイミングを狙う。2010年会社を買戻し、社長に就任。自ら生産地に赴き、牛の飼育、解体から学ぶなど「肉」ビジネスも一から勉強する。両親と共に暮らした思い出の詰まった西宮の実家も買い戻し、両親に穏やかな生活を取り戻せホッとしている。

取締役副社長の妹・綾城紀子と二人三脚で事業を再構築し、現在は江坂、京橋、阪急梅田三番街に「大同門」、北浜と天満橋に肉バル「DOMO」を運営。

1968年4月3日に開店した「大同門」1号店のあった梅田新道の土地は、祖父が苦勞して手に入れたもの。その土地を手放さざるを得なかったときの父親の涙が忘れられず、「いつか買い戻し、『大同門』の看板をもう一度あげたい」と思っている。